永井隆平和作文【代表作品】　西小　高学年

一歩近づこう平和へと

ぼくの考える「平和」には、「自然環境を守ること」と、「人と人との関わりを大切にする」ということが必要であると考えています。ぼくたちは今、総合的な学習の時間にコウノトリについて調べたり、活動したりしています。学習を通して、コウノトリには、生きていくために住みやすい環境が必要であることが分かりました。初めは、自分たちのくらしに自然は関係ないと思っていましたが、学習しているうちに自然環境の大切さを学びました。学習を進め、自分達にも何かができるのではないかと思うようになりました。

この前、コウノトリについて、もっとくわしく知るために、兵庫県から来られたせん門家の西井先生からお話を聞きました。その中で、「コウノトリの死因の半分は、人間に関係している」ということや「コウノトリが生きていくためには、生き物の多様性が欠かせない」ということなどを学びました。ぼくは、さらにコウノトリのためにがんばろうという気持ちが高まりました。

また、良い自然かんきょうを作るために、ぼくたちが活動している田んぼづくりでは、地域の方々に協力していただきながらがんばっています。田植えでは、稲の植え方を教えていただきました。田んぼから水をぬくときに、生き物がいなくならないようするための「よけじ」作りでも、地域の方々が、「ほった土をダムのようにするといいよ。」や、「深くほるためには、後ろにあるかべを利用すると、土がやわらかくなって、ほりやすくなるよ。」などと教えてくださり、より良いよけじを作ることができました。

このように、地域の方々がぼくたちに様々なことを教えてくださったおかげで、大切なことを学びました。それは、地域の方との関わりの大切さです。今まで地域のことや、そこに住んでおられる方との交流について、全く考えていませんでした。しかし、地域と関わることで、自分の知らないことがたくさん知ることができたり、新しい考え方を知ることができたりすることがよく分かりました。

ぼくは、総合的な学習の時間を通して、生き物が増え、良い環境になるためにたくさんの人が協力し合っていることが分かりました。自分たちには何ができるのかを、今度はぼくたちが地域の方々や日本中、世界中へと発信していきたいです。「豊かな自然」「人と人との温かいつながり」の二つがあることで、平和へ一歩近づけるのではないでしょうか。**【５年生児童】**

平和への願い

五月の修学旅行、原爆の子の像の前で見たたくさんの折り鶴、平和に対する人々の願いが、ぼくたちに伝わってきました。

折り鶴に込められた願いは、戦争が二度と起こらないこと、そして平和な世界になってほしいということだと思いました。佐々木禎子さんが白血病が治るようにと折り鶴に込めた願いはかなわなかったけれど、罪のない人々が簡単に殺されてしまうことのない、本当に平和な世界になってほしいと思います。ぼく達西小学校六年生も、そういう気持ちで千羽鶴を折り、ささげました。そして折り鶴に込めた思いを多くの人に伝えたいと思っています。

平和資料館では、伸ちゃんの三輪車を見ました。伸ちゃんのことは、平和資料館で知りました。三輪車は、とても心に残った展示物の一つです。三輪車は、他の物に比べて、そのままの形で残っていました。伸ちゃんは亡くなってしまったけれど、伸ちゃんの思いがぼくに伝わってくるようでした。

伸ちゃんは三輪車がほしくてたまりませんでした。お父さんに買ってと言っても、そのころの日本は、食料が不足し、金属は戦場で使う武器に変えられていました。そのため、お店で三輪車は打っていません。物が自由に手に入る今とは全くちがいます。お父さんは困りましたが、水兵になる近所のおじさんが家にあった三輪車を伸ちゃんにくれたのです。伸ちゃんはうれしくてうれしくてたまりませんでした。それだけほしかった三輪車だったのです。その日から、友達のきみちゃんと三輪車で遊んだそうです。しかし八月六日のことです。いつも通り二人は三輪車で遊んでいました。

八時十五分。辺りは真白になりました。原爆が落とされたのです。伸ちゃんのお父さん、お母さん、きみちゃんのお母さんは助かりました。伸ちゃんは死ぬ直前であっても三輪車といっしょにいたがりました。ハンドルを放さなかったのです。伸ちゃんがもう少しで四才になるときでした。

お父さんは、伸ちゃんの遺体と三輪車、友達のきみちゃんの遺体を家の前にうめました。それから四十年後、お父さんは二人をお墓に移そうと思いほり出しました。二人の白い手の骨はつなぎあっていたのです。ぼくは、その手の様子から、二人が協力して何かを伝えようとしていると思いました。それは、平和な世界にしてねということです。

伸ちゃんの三輪車は平和資料館に展示されています。それは一体何故でしょう。ぼくは、幼くして被爆し亡くなった伸ちゃんのような子どもを作らないこと、そして二度と戦争してはならないことを伝えるためだと思っています。ぼくにできること、それは太平洋戦争についてもっと学習し、戦争の記憶を風化させないようにすること、平和学習を通して戦争の恐ろしさを伝えることだと思っています。**【６年生児童】**